

國政研究會

伊太利動產銀行法規

昭和九年四

中  
國  
文  
學  
館  
藏  
書  
印





昭和九年四月二十日

伊太利動産銀行法規

國家經濟研究所譯

6675

注意事項

- 資料は大切に扱います。
- 資料は転貸借はお断りします。
- 15日間の期限に必ず返して下さい。
- 資料を汚損または紛失した時は同一の資料又は相当代価を弁償していただきます。

群馬県立図書館  
前橋市日吉町一丁目14-8  
電話 (0272) 3008番



目次

- 一 伊太利動産銀行ノ設立ニ関スル緊急勅令 一
- 二 伊太利動産銀行定款ノ認可ニ関スル省令 一二
- 三 伊太利動産銀行定款 一三



一九三一年十月十三日緊急勅令第一三九八號

### 伊太利動産銀行ノ設立

一九三一年十一月十八日官報掲載

一九二六年一月三十日付法律第百號第三條ニヨリ  
工業投資ノタメ動産ヲ担保トシテ貸付ラナス銀行  
創設ノ必要生スルニ至レリ  
朕ハ神ノ恵ミト國民ノ意志ニヨリ閣議ヲ経テ總理  
大臣大藏司法組合及農林各大臣ノ副署シタル本緊  
急勅令ヲ茲ニ裁可ス

第一條 ローマニ伊太利動産銀行ヲ設立ス

同銀行ハ法人格ト自治能力ヲ有ス



同銀行ノ資本金ハ五億リテ以上トシ工業資金助成組  
合ニ加入セル會社又ハ大藏大臣ヨリ投資ヲ許サレタ  
ル會社ヨリ之レヲ募集ス

上記資本金ノ半額

ハ郵便貯金局之ヲ引受ク

各株主會社ノ負擔スヘキ義務ハ應募金額ノ範圍ニ止  
ルモノトス

應募金額ノ十分ノ三八定メラレタル期間内ニ拂込ミ  
ヲ了シ殘額ハ更ニ定款ノ定ムル所ニヨリ拂込ムモノ  
トス

定款ハ銀行資本金額及資本金トシテ出資スル代表証  
券ノ種類ヲ規定シ又資本金ノ増額株券ノ讓渡及還付  
ニ関スル條件ヲ規定ス  
株主會社ハ銀行資金ノ應募又ハ解約ニ際シテハ法律

ノ規定並現行定款ニ依ルモノトス

第二條 動産銀行ハ次ノ機能ヲ有ス

- 一 動産ヲ担保トシテ伊太利國民ノ個人企業ニ對スル貸付
  - 二 伊太利國民ノ個人企業ヨリノ株式買上
- 貸付金ノ辨済期間ハ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 動産銀行ハ次ノ權限ヲ有ス

- 一 信託營業及銀行ノ發行スル無記名證券ノ利息ヨリナル特殊有價証券ノ所有權ヲ代表スル無記名假証券ノ發行斯カル信託營業ニ関スル規定ハ銀行管理委員會ノ提案ニ從ヒ大藏大臣之ヲ認可ス



二 年利付債券ヲ發行シ銀行ノ所有ニ係ル特殊証券ノ配當金ヲ受ク銀行ノ特殊營業ニ関スル規定ハ銀行管理委員會ノ提案ニヨリ大藏大臣之レヲ認可ス

三 銀行ハ有擔保無擔保ノ特殊年利付債券ヲ發行スル事ヲ得但レ蓄預金及當座預金ノ取扱ヲ禁止ス

銀行ノ發行スル債券ノ額面總額ハ總テノ債務ヲ併セテ募集資本金ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 銀行ノ發行スル債券ハ記名式及無記名式トシ管理委員會ノ決定セル分割償還案ニヨリ償還シ得ルモノトス

銀行ハ管理委員會ノ決議ニヨリ定メラレタル範圍内ノ特殊債券ヲ發行スルノ權限ヲ有ス

特殊擔保ニヨル特殊債券ハ各々其ノ發行ニ際シ發行趣意書ニ其理由ヲ明記スルモノトス

銀行ノ發行スル債券及他ノ証券ニ對シテハ本勅命第八條ニ定ムル處ニ依リ現在及將來ニ亘リ國家又ハ地方自治團體ノ税金又ハ課稅ヲ免除ス

第五條 本銀行ノ特殊債券ニシテ閣議カ特ニ公共利益ノタメ必要アリト認メ會計検査院ニ登録セラレタルモノニ對シテハ政府首長及大藏大臣ハ勅令ヲ以テ國家ニ於テ保證スヘキコトヲ規定ス

第六條 動産銀行ノ發行スル債券ハ動産社債權ト同等ノ効力ヲ有シ株式取引所ニ於テ取引セシムルコトヲ



得

該債券ハ發券銀行ニ於テ割引ヲ受ケ又公共團體ハ保証積立金トナスコトヲ得

第七條 動産銀行ハ伊太利王國植民地及外國ニ於テ發行債券ノ直接又ハ間接ノ取扱ヒラ主タル目的トスル企業及會社ニ投資スルコトヲ得

第八條 動産銀行ハ登録税印紙税(第三者或ヒハ銀行ノ發行スル爲替手形ヲ除ク)又ハ登録及切手代用品等ニ關スル税金動産税並銀行自体ガ國税及地方自治團體ノ課税(地租ヲ除ク)ヲ免除セラル、代リニ國庫ニ對シ運用資本金百リテ毎ニ七チエンテシミノ割

合ニテ納付金ヲ支拂モノトス

動産銀行ハ一般法定課税ノ適用ヲ受ケサルカタメ利潤ヲ確保シ且ツ抵當所有者ノ利益ヲモ保護スルヲ得ルモノトス

第九條 動産銀行ニ十五名ノ管理委員會ヲ置ク

管理委員ハ動産銀行總裁副總裁大藏省ヨリニ名組合省ヨリ一名農林省ヨリ一名他ノ九名ハ定款ノ規定ニ基キ株主會社ヨリ選任シタルモノヨリナル  
動産銀行 總裁及副總裁ハ組合大臣ノ推薦ニヨリ總理大臣及大藏大臣之レヲ任命ス

第十條 動産銀行ニ於ケル理事會ハ商法第百八十三條



ノ規定ニ依リ職務ヲ行フ  
理事ハ六名トシ中三名ハ常任理事トナル理事ハ毎年  
大藏省組合省及株主總會ニヨリ選任ス

第十一條 動産銀行ノ豫算ハ管理委員會ニ於テ作成シ  
株主總會ノ決議ヲ要ス

動産銀行ノ益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配ス

- 一 積立金トシテ二割ノ控除金
- 二 各株主會社ノ投資資本ニ対スル五分ノ利益配當
- 三 更ニ剰余金アル時ハ七割五分迄ヲ積立金トシ残  
余ノ二割五分ハ株主會社ヘノ配當

本條第一項ニヨル積立金二割ノ繰込ミヲナシタル時  
益金ハ株主會社ヘノ五分ノ配當ニ不足ナル場合國家

ハ配當不足額並ニ次年度ノ豫算補充ニ対シ貸付テナ  
ス

第十二條 動産銀行ハ大藏大臣ノ監督トス 大藏大臣

ハ組合大臣ト協力シテ之レヲ行フ 大藏大臣ハ組合  
大臣ノ同意ニヨリ大臣令ヲ以テ株主總會ヨリ提出ス  
ル定款ヲ認可ス

第十三條 法律並定款ノ違反行爲又ハ経営ノ不規律ニ

対シ總理大臣ハ大藏大臣ノ提案ニ基キ國會並閣議ノ  
審議ヲ經テ勅令ニヨリ管理委員會ノ解散ヲ行ヒ同時  
ニ同委員會ノ機能ヲ代行スル機關ヲ設置スルコトヲ得  
斯カル場合管理委員會ハ六月以内ニ再組織スルヲ要ス



第十四條 本緊急勅令ニ違反スル總テノ處置ハ之ヲ無効トス

第十五條 本緊急勅令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本緊急勅令ハ議會ノ承認ヲ經テ法律トス  
一切ノ關係法律ハ主務大臣之レヲ提出ス

朕ハ本緊急勅令ニ調印スルコトニヨリ伊太利王國ノ法律及勅令ノ公文集中ニ収録サレ何人モ之ヲ遵守スヘキコトヲ命ス

羅馬一九三一年(ファシスト第十年)十月十三日

グイットリオ・エマヌエレ

ムツソリニ  
モスコリーニ  
ロツコ  
ボツタイ  
アケエルボ

一九三一年十一月十七日會計検査院ニ登録  
政府法令三一四号登録八五頁



一九三一年十二月四日付省令

# 伊太利動産銀行定款ノ認可

一九三一年十二月十五日官報掲載

大藏大臣ハ組合大臣ト協力シテ伊太利動産銀行ノ設立ニ関スル一九三一年十二月十三日付緊急勅令第一三九八號及同銀行定款ノ認可ニ関スル上記緊急勅令第十二條ヲ審査シ一九三一年十二月三日羅馬ニ於ケル株主總會ニ於テ株主會社ノ法律代表ノ提出セル定款ヲ審査セリ

## 告示

一九三一年十二月三日羅馬ニ於ケル株主總會ニ於テ株主會社ノ法律代表ノ提出セル伊太利動産銀行ノ定款及同定款第二條第一項ニ対スル別箇ノ保留箇條ヲ認可ス  
本勅令及上記定款ハ王國官報ニ掲載ス

羅馬 一九三一年十二月四日

大臣 毛スエーニ

# 伊太利動産銀行定款

第一章 銀行ノ構成 所在及目的



第一條 一九三一年十二月十三日緊急勅令第一三九八號ヲ以テ設立セル伊太利動産銀行ハ自治能力ヲ有スル公法人ニシテ羅馬ニ所在ス

第二條 動産銀行ハ次ノ機能ヲ有ス

- 一 實物又ハ動産ヲ担保トシテ伊太利國民ノ個人企業ニ對スル貸付
  - 二 伊太利國民ノ個人企業ヨリノ株式買上
- 貸付金ノ辨濟期間ハ十箇年以上ヲ超エルコトヲ得ス
- 本銀行ハ貯蓄預金及當座預金ノ取扱ヲ禁~~止~~ス
- 本銀行ハ伊太利王國 植民地及外國ニ於テ發行債券ノ直接又ハ間接ノ取扱ヲ主タル目的トスル企業及會社ニ投資シ又信託營業ヲナス

第二章 銀行ノ資本金

第三條 銀行ノ資本金ハ五億五千百十萬リヲトシ之ヲ五千五百五十一株ニ分テ單一又ハ複合証券トナシ一株十萬リヲトス

本定款認可ニ關スル勅令ノ發布後二十日以内ニ伊太利銀行ニ應募金額ノ十分ノ三割拂込ミテ了シ殘額ハ管理委員會ニヨリ一箇月ノ豫告ヲ以テ一圓又ハ數圓ニ直リ拂込ヲ要求ス

拂込金額ハ各証券ニ注記スルコトヲ要ス

各株主會社ノ義務ハ應募金額ノ範圍ニ止ルモノトシ又上記期間内ニ於ケル拂込額ノミノ責任ニ止ルモノトス



第四條 動産銀行ノ資本金ハ株主總會ノ決議ニヨリ組  
合大臣ノ同意ニヨリ大藏大臣ノ認可ヲ経テ増額スル  
コトヲ得

新應募株ニ対スル拂込金取立ハ前條第二項及第三項  
ト同様ノ形式ニヨリ管理委員會ニヨリ一團又ハ數團  
ニ亘リコレヲナス

第五條 動産銀行ノ証券ハ特ニ代表セルニ名ノ管理委  
員之ニ署名シ銀行ノ印ヲ捺シタル後株主ノ名ヲ付シ  
發行ス

本証券ノ讓渡ハ管理委員會ノ認可ヲ得ルニ非サレハ  
爲スコトヲ得ザルモノニシテ株主名簿及代表証券ニ  
註記スルコトニヨリ効力ヲ發生スルモノトス

第三章 信託營業ノ代表証券及債券

第六條 銀行ハ左記ノモノヲ發行スル権限ヲ有ス

- 一 公只及個人的特殊資金ヲ代表スル証券
  - 二 年利付債權ノ發行及銀行ノ所有ニ係ル特殊株券  
ノ配當金ノ受領
  - 三 有擔保無擔保ノ特殊年利付債券
- 銀行ノ發行スル第一項及第二項ノ債券ノ額面總額ハ  
總テノ債務ヲ併セテ募集資本金ノ十倍ヲ超エルコト  
ヲ得ス

第七條 第六條第一項ノ証券ハ信託營業及無記名証券  
ノ利息ヨリナルヲ特殊資金ト關係シテ發行ス



無記名証券ノ世襲権及占有ハ有價証券額ノ權利ト一  
致ス

信託營業ニ関スル規定ハ銀行管理委員會ノ提出ニ依  
ルモノヲ大藏大臣ハ組合大臣ノ同意ヲ得テ之ヲ認可  
ス

第六條第二項ニヨル債券ハ銀行ノ所有スル特殊株券  
ト關係シテ発行ス

斯カル特殊營業ニ関スル規定ハ銀行管理委員會ノ提  
案ニヨルモノヲ大藏大臣ハ組合大臣ノ同意ヲ得テ認  
可ス

第六條第三項ノ債券ハ貸付又ハ特殊信託營業ノタメ  
発行ス

第八條 特殊有價証券額ヲ代表スル証券及債券ハ單一  
又ハ複合記名式又ハ無記名式トス 利害關係者ノ要  
求及損害ニ於テ單一証券ノ結合 複合証券ノ分離行  
ハレ又証券ハ無記名式ヨリ記名式ヘ又ソノ反対行ハ  
ル

動産銀行ノ発行スル債券ハ動産社債權ト同等ノ効力  
ヲ有シ株式取引所ニ於テ取引セシムルコトヲ得

該債券ハ証券銀行ニ於テ割引ヲ受ケス公共團體ハ保  
証積立金トナスコトヲ得

銀行ノ発行スル債權及他ノ証券ニ対シテハ現在及將  
来ニ亘リ國庫及地方公共團體ノ税金又ハ課税ヲ免除  
ス



第八條 第六條ニヨル証券及債券ハ銀行ヲ代表セルニ  
名ノ管理委員又ハ一名ノ管理委員及銀行ノ取締役之  
ニ署名シ銀行ノ捺印ヲ要ス

第十條 流通債券ハ管理委員會ノ決定セル分割償還案  
ニヨリ償還シ得ルモノトス  
銀行ハ自身ノ發行セル債券ヲ額面額又ハ額面額以下  
ニテ回収スルノ權限ヲ有ス  
貸付ノタメ發行スル債券ハ毎財政年度末ニ於テナホ  
貸付ノタメ當ラレタル資本金ヲ超過スルヲ得ス

第十一條 銀行ハ管理委員會ノ決議ニヨリ定メラレタ  
ル範圍内ノ特殊債券ヲ發行スルノ權限ヲ有ス  
特ニ公共利益ノタメ必要ナリト認メラレ且ツ國家ニ

於テ保証セル特殊担保ニヨル特殊債券ハ各々其ノ發  
行ニ際シ發行趣意書ニ其理由ヲ明記スルモノトス

第四章 銀行ノ機關

第十二條 銀行ノ機關次ノ如シ

- 一 株主總會
- 二 銀行總裁及副總裁
- 三 管理委員會
- 四 執行委員會
- 五 理事會

一 株主總會

第十三條 株主總會ハ株主會社ノ法律代表ヨリ成リ定



期臨時ノ形式ニヨリ召集スルモノトス  
定期株主總會ハ毎財政年度ノ終了ニ継ク最初ノ三ヶ  
月以内ニ之ヲ召集ス

株主總會ニ於テ豫算及利益配當ヲ決議シ管理委員ヲ  
選出シ又常任理事及補欠理事ヲ選出ス 補欠理事ノ  
任命ハ株主之ヲ留保ス

臨時株主總會ハ銀行總裁又ハ管理委員會カ適當ト認  
ムル場合又ハ銀行資本ノ三分ノ一ヲ代表スル株主ヨ  
リ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ開クヲ得ヘシ

第十四條 株主總會ノ召集ハ銀行總裁ニヨリ十五日前  
ニ官報ニ發表シ同時ニ各株主ニ書留郵便ヲ以テ通達  
ス

召集狀ニ次ノ臨時集會ノ時日ヲ決定スヘシ

初回ノ召集日ヲ距ル八日以上ノ後開カレハキ集會

ニハ株主會社ノ法定數ノ出席ヲ要セス

第三回株主總會ニ於テハ前回ニヨリ指定セラレタル

議題ノミニ對シ審議ヲナス

第十五條 株主總會ノ召集日一箇月前ニ株主トナレル

者モ株主名簿ニヨリ總會ニ出席スル權利ヲ與ヘラル  
ルモノトス

各株主ハ一名或ハ二名ノ代理人ヲ出席セシムルヲ得

第三ノ場合ニ於テ株主ハ投票權ヲ與ヘルモノヲ明白  
ニ指示スルヲ要ス

勸業銀行總裁ハ總會ニ出席スル權利一般及代理ノ正



確ラ認定スル権限アリ

第十六條 動産銀行總裁又ハ副總裁ハ株主總會ヲ司會ス

銀行總裁ニヨル種々ノ處置ヲ除キ株主總會ノ書記官ノ職掌ハ委員會ノ書記官之ニ當ル

秘忍記名投票ヲ行フヘキ場合銀行總裁ハ株主總會ニ出席セル者ノ間ヨリニ名ノ投票検査人ヲ選出ス

第十七條 株主總會ハ第一回召集ニ於テ少クトモ銀行資本金ノ三分ノ二ノ出席ヲ要シ又少クトモ株主ノ半数カ出席セル場合ニ成立ス

第二回株主總會ニ於テハ株主會社ノ代表セル資本額

及株主會社ノ代表者數ノ如何ニ拘ラズ成立ス

適法ニ召集セラレ有効ニ成立セル株主總會ハ總テノ

株主ヲ代表シ法律及定款ニ基キ爲サレタル決議ハ缺

席者不賛成者ヲ含ム總テノ株主ヲ強制スルコトヲ得

ルモノトス

第十八條 投票回避者ヲ除キ絶体多數ノ投票ヲ得タル

決議ハ有効トス

銀行資本金ノ増額又ハ定款ヲ変更セントスル時ハ少

クトモ銀行ノ資本金ノ三分ノ二ヲ代表スル株主ノ投

票ヲ要ス

株主ハ自己ノ所有スル動産銀行ノ各株毎ニ投票權ヲ

有ス 社會的職務ノ任ニ於テ各株主ハ最大限一千



ノ投票数ヲ有スルモノトス  
 管理委員ハ豫算ノ可決又ハ自己ノ責任ニ関スル決議  
 ニ対シ投票ヲナス能ハス 株主ハ銀行ノ利益ニ対立  
 スル投票ハ如何ナルモノニテモ爲ス能ハス之等ニ関  
 スル總テノ問題ハ銀行總裁ノ獨裁ニヨリ解決ス

第十九條

決議ハ口答手續ニヨリナシノ記録ハノ署名ハ  
 銀行總裁及書記官之ヲ爲ス

管理委員會書記官ノ作成スル口答手續ノ寫シハ裁判  
 所司法行政官廳及第三者ニ対スル証明書トナル  
 動産銀行ノ決議及豫算ハ王國官報及羅馬縣法律告知  
 公報ニ掲載ス

二 銀行總裁及副總裁

第二十條 總理大臣及大藏大臣ハ組合大臣ノ同意ヲ得  
 テ銀行總裁及副總裁ヲ勅令ヲ以テ任命ス

第二十一條

銀行總裁ニ次ノ如キ権限ヲ附與ス

一 司法及行政官廳及第三者ニ対スル動産銀行ノ  
 法律上代表

二 管理委員會ノ召集及主宰

三 株主總會ノ召集及主宰

四 執行委員會ノ召集及主宰

五 銀行業務ニ関スル費用及處置ノ命令

銀行總裁ハ管理委員會ノ召集決議並ニ執行委員會ノ



決議ヲ撤回セシム得ルモノトス  
 副總裁ハ總裁ヲ補佐シ總裁ノ缺席又ハ事故ノ場合同  
 一ノ権限ヲ以テ之ニ代理ス

### 三 管理委員會

第二十二條 動産銀行ニ十五名ノ管理委員會ヲ置ク  
 管理委員ハ動産銀行總裁副總裁大藏省ヨリ二名 組  
 合省ヨリ一名 農林省ヨリ一名他ノ九名ハ株主總會  
 ヨリ選出シタルモノヨリ成ル  
 管理委員ノ選出ハ定款第十八條ニ定ムル投票ノ制限  
 ラ以テ秘密記名投票ニヨリ行フモノトス  
 各省ヨリノ管理委員 及 株主總會ノ選出スル管理委  
 員ノ任期ハ二箇年ニシテ再任ヲ許ス

第二十三條 株主總會ノ任命セル管理委員ノ一名又ハ  
 ソレ以上ノ死去又ハ退職ノ場合管理委員會ハ株主總  
 會ノ承認ヲ省キ補缺管理委員ヲ假ニ任命スルヲ得ル  
 モノトス  
 斯クノ如クシテ任命セラレタル管理委員ハ被代理者  
 ノ残存任期中ソノ職ニ止リ再任命資格ヲ留保ス

第二十四條 管理委員會ハ銀行總裁之ヲ召集シ郵便ニ  
 ヨリ少クトモ五日 前管理委員及常任理事ノ住居ニ通  
 達ス 緊急ヲ要スル場合ハ二十四時間前ニ電報ニヨ  
 リ通達ス  
 會議ノ成立ニハ管理委員ノ大多數ノ出席ヲ要ス



決議ハ投票回避者ヲ除キ投票ノ絶体多数ノ場合採擇セラレ可否同数ナルトキハ銀行總裁ノ決スル所ニ依ル

管理委員ハ銀行ノ利益ニ対立スル利益ヲ代表シ又持ツコトヲ得ス之等ニ関スル總テノ問題ハ銀行總裁ノ獨裁ニヨリ解決ス

決議ハ口答手續ニヨリナシソノ記録ハノ署名ハ銀行總裁及書記官之ヲナス

管理委員會ノ作成スル口答手續ノ寫シハ裁判所司法行政官廳及第三者ニ対スル証明書トナル

第二十五條 管理委員會ハ動産銀行ノ常時及非常時ノ管理ニ関スル廣大ナル権限ヲ有シ動産銀行ノ目的ノ

達成ト實現ノタメアラユル機能ヲ有ス

管理委員會ハ次ノ項目ヲ審議ス

- 一 動産銀行ノ募集資本ノ承擔込分ノ徴收ニ関スル件
- 二 信託營業及特殊有價証券類ノ管理ニ関スル規定
- 三 信託營業ヲ代表スル証券及債券ノ発行ニ関スル規定

四 動産銀行ノナスアラユル種類ノ活動

五 豫算及利益配當ニ関スル提案及株主總會ニ付スル他ノ提案

六 執行委員會ニ対シ或ル種ノ権限ノ委任

七 執行委員會委員ノ任命及委員ノ職掌上ノ賠償

八 法律及定款ニ関スル事項ニシテ他ノ機關ノ職

権外ニアル問題



第二十六條 管理委員會ノ委員ハ自己ノ行フ業務ニヨリ何等ノ個人的義務ヲ招致セス 自己ノ任務ノ遂行ニノミ責任アルモノトス

動産銀行ノ目的及性質ニ鑑ミ管理委員ニ対シ何等ノ賠償ヲモタラサス

四 執行委員會

第二十七條 執行委員會ハ動産銀行總裁副總裁及管理委員會ノ任命スル三名ノ委員ヨリ成ル

第二十八條 執行委員會ハ法律定款及管理委員會ノ決定スル所ニ依リ常時ノ職務ヲ行フ

執行委員會ハ次ノ職能ヲ有ス

- 一 管理委員會ノ職能ニ関スル件ノ提出
- 二 職員ノ任命罷免職掌及俸給ノ決定
- 三 契約ニ関スル審議
- 四 株券 抵當ノ拋棄ニ関スル審議 公ノ債券ニ対スル貸付ノ認可 積立金及貸付資金其他總テ公私ノ事務ニ関スル審議
- 五 積立ニ関スル緊急處置ノ審議及貸付ニ対スル償還 缺除セル場合期限完了後抵當ニヨリ銀行ノ得タル動産ノ賣却ヲ株式仲買人ヲ通シ促進

第二十九條 動産銀行ニ歸スル決議ハ執行委員會ノ二名ノ委員ノ連帶署名又ハ平定款第五第六條ニヨル特



別ノ代理者ヲ除キ執行委員會ノ一委員及取締役之ニ署名ス  
執行委員會ハ限定セル條例ニ対シ特別ノ委任ヲ與フルヲ得ルモノトス

五 理事會

第三十條 勸産銀行ニ於ケル理事會ハ商法第百八十四條ノ規定ニ依リ職務ヲ行フ  
理事ハ六名トシ中三名ハ常任理事トナル理事ハ毎年大藏省組合省及株主總會ニヨリ選任ス

第三十一條 理事ハ銀行ノ會計財政行政管理ノ監督ヲ行ヒ又法律定款及規定ノ遵守ニ対スル監督ヲナス

理事ハ豫算ノ實際ニツキ調査シ入貸付資金ト流通債券間ノ照應並不定款第六條示項ニ規定セル制限ノ遵守ニツキ調査ス  
理事ハ如何ナル理由アリトモ銀行ノ營業及管理ニ対シ干涉スル能ハス  
常任理事ハ管理委員會及株主總會ニ出席スヘシ

第五章 豫算 利益及積立金

第三十二條 勸産銀行ノ財政年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ至ル

毎年五月ニ於テ管理委員會ハ翌年ノ豫算ヲ作成ス豫算ハ損益勘定財政年度末ノ財産目錄及説明報告書ヲ備フルヲ要ス



豫算ハ理事ノ審査ニ任ネラレ理事ハ十五日以内ニ適  
當ナル報告書ヲ作成スルモノトス

第三十三條

動産銀行ノ益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配ス

- 一 積立金トシテ二割ノ控除金
  - 二 各株主會社ノ投資資本ニ対スル五分ノ利益配當
  - 三 更ニ剩餘金アルトキハ七割五分迄ヲ積立金トシ  
残余ノ二割五分ハ株主會社ヘノ配當
- 國家ハ法律ノ定ムル所ニヨリ株主ニ対シ第二項ニ対ス  
ル保證ヲナス

第三十四條

証券ノ転賣及銀行ノ所有スル証券價格ノ

変動ニヨリ生スル利益ハ証券ノ資金ヲ構成ス 同資

金ニヨリ証券賣買ノ際及銀行ノ所有スル証券價格ノ  
変動ニヨリ生スル損失ヲ償フコトヲ得

第六章 政府ノ監督

第三十五條

動産銀行ハ大藏大臣ノ監督トス 大藏大

臣ハ組合大臣ト協カシテ之レヲ行フ

法律並定款ヘノ違反行為又ハ経営ノ不規律ニ対シ總  
理大臣ハ大藏大臣ノ提案ニ基キ國會並閣議ノ審議ヲ  
經テ勅令ニヨリ管理委員會ノ解散ヲ行ヒ同時ニ同委  
員會ノ機能ヲ代行スル機關ヲ設置スルコトヲ得  
斯カル場合管理委員會ハ六箇月以内ニ再組織スルヲ  
要ス



第七章 銀行ノ清算

第三十六條 一箇年ノ決算表カ資本金ノ半額ノ損失ヲ示ストキ管理委員會ハ資本ノ補填又ハ銀行業務ノ中止ヲ審議スルタメ株主總會ヲ召集スヘシ

資本金補填ノ決議ニ應セサル株主ニ対シ可決ヲ見タル最近ノ豫算ノ明示セル財源ニ基キソノ持分ノ償還ヲ獲得スル権能ヲ與フルモノトス

該決議ハ王國官報及ローマ縣法律告知公報ニ掲載ノ後十日以内ニ銀行ニ通告セラルヘシ 若シコノ通告ナキトキハソノ決議ヲ取消スコトヲ得

第三十七條 株主總會カ前條ノ條件ニ於テ銀行業務ノ中止ヲ決議シタル場合銀行ノ解散ヲ決定スル適當ナル

ル覆置ハ政府之ヲ留保ス

第八章 附則

第三十八條 銀行ノ第一財政年度ハ設立ノ日ヨリ一九三三年三月三十一日ニ至ル

第三十九條 本定款ハ組合大臣ノ同意ニヨリ大藏大臣ノ定款認可ニ関スル大臣令ト共ニ王國官報及ローマ縣法律告知公報ニ記載スルコトニヨリソノ効力ヲ發生ス

羅馬一九三一年（ファシスト第十年）十二月三日

伊太利動産銀行總裁

× | ヤ |



巳  
丑



群馬県立図書館



0706675-6